

東京2020パラリンピックの成功と
バリアフリー推進に向けた懇談会
第2回

—議事録—

日時：令和元年8月21日（水） 12時20分～13時20分

場所：海の森水上競技場

【小池知事】

ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また今回からご参加いただいている皆様方、後ほどご紹介させていただきたいと思います。そして、本日は谷垣名誉顧問にもご出席いただいております。ただ今から、第2回目の懇談会を始めさせていただきます。

さきほど、私、新聞を切り抜きまして、いろんな資料があるんですけども、これが一番わかりやすいかな、明日からですね、いよいよパラリンピックのチケットの募集が始まりまして、それぞれの会場で、何時から何時まで何が行われるかというようなスケジュールがございます。皆様方のお手元にもファイルがございますので、ご覧頂ければと思います。

そして、このパラリンピックのチケットの受付が始まるわけですけども、こちらは、やはりパラリンピックの成功もしくは2020年の大会の成功というのは、ひとえにですね、パラリンピックの会場だと、満席になる、というのが一つの成功の証になるのではないかと考えておりまして、ぜひとも皆様方のご協力をお願いするところでございます。

それから今日お越しいただきまして本当にありがとうございます。こちら海の森水上競技場でございますが、先日、完成披露させていただいたところでございます。これらを含めまして、都立の会場は着々と完成に向けて進んでおりますけれども、都が整備しております競技会場は、設計段階から、障害のある方や学識経験者の皆様方にご意見を拝聴させていただきまして、そしてそれぞれ整備に反映させていただいたところでございます。今日ご出席の高橋先生、川内先生にも、ご意見をいただきましたし、またボートの運営テストの際は、根木さん、葭原さんにアクセシビリティの観点からいろいろとご協力いただきました。本番に向けまして皆様方のご意見を最大限活かして参りたいと考えております。

そして、前回、一回目のミーティングで「人と人との心が重要」などのお話を皆様方からいただいたかと思っております。障害のある方に配慮した都市づくり、これはパラリンピックをきっかけにですね、よりバリアフリーを東京で進めていくという主旨でございまして、東京もそしてまた日本も、これから高齢化を迎えるということもこれあり、また障害をかかえておられる皆様方がどこにでもアクセスできて、そして楽しめるというようなまちづくり、これを進めていくことは東京にとりましても、とても大きな課題でございます。

目に見えないもの、人の考え方の変革、社会の新しいあり方、心のバリアフリーも含めてですね、これが東京2020大会のレガシーになるように御協力を賜りたいと存じます。

今回、新たに13名の方々に「パラ応援大使」をお引き受けいただいております。そして、パラ応援大使につきましては、皆様方のお手元に名刺が置いてあるかと思っております。それぞれ視覚障害者の方にもわかるような、このような仕組みになっておりま

して、皆様方にこの名刺をお渡ししますので、どうぞバンバンまいっていただきたいという意味でございます。

ということで、学識経験者、パラアスリートの方を含めましてメンバーの皆様全員ですね、パラ応援大使として応援をいただき、そして会場を満員にする、そして「バリアのない東京」を実現して参りたいと考えておりますので、どうぞ本日もよろしくお願いを申し上げます。冒頭のご挨拶とさせていただきます。

それでは、私の方、東京都はいろいろと省エネでやっております、私が司会を務めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日ご出席をいただいております、谷垣名誉顧問から一言ご挨拶を賜ればと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

【谷垣名誉顧問】

ご紹介をありがとうございました、谷垣禎一でございます。どうぞ、よろしくお願いを申し上げます。

今、知事からお話がありましたように、今度のパラリンピックをどうしたって成功させたいと思っております。客席が満員になるということはもちろんですけども、私、自分が障害を負いましてからつくづく思いますことは、障害を持っていても体を動かすことは楽しみがあるんだということがわかりました。もちろん最初はきついです。ドクターからは「寝ないで、ちゃんと寝るなら車いすに座れ、車いすに座っているなら少しでも体を動かせ」と。しかし、リハビリをして帰ってまいりますと、横になることの心地よさというのは普段と全然違うんですね。ですから、このパラリンピックの機会にですね、障害を持っている者も少しでも体を動かすことは楽しいぞ、そういう環境と、仲間と、いろんな雰囲気盛り上がる、ということがパラリンピックの成功にもつながるのではないかと思っております。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

【小池知事】

名誉顧問を務めていただいております谷垣先生からご挨拶を頂戴いたしました。

それでは、こちらをちょっとご覧いただきたいと思っております。画面の方ですね、2020大会のパラリンピックの競技がたくさんございますので、動画でご紹介をしたいと思います。ご注目いただきたいと存じます。

(動画放映)

【小池知事】

はい。ということで22の競技をちらっとご覧いただきました。私もほぼ…「ほぼ」じゃない、全ての競技について、見て、応援をして、実際に自分でもやってみるところでございます。健常者も一緒に楽しめるようなパラスポーツもたくさんございます。ぜひ、皆様方にはこれからもいろんなところでご紹介・ご案内させていただきますの

で、実際に見ていただき、楽しんでいただき、そして広く皆様方にアピールをしていただければと存じます。

それでは時間もございますので、本日の懇談会の意見交換に早速入ってまいりたいと思います。

今回は、新たに加わっていただいたメンバーの皆様方がいらっしゃいます。それから、前回ご欠席だった方にご発言を中心的に行っていただきたいと存じます。

それでは、すぐ右手、料理人で大変おいしい分野から秋山さん。どうぞ、座ったままで。

【秋山 能久様】

ご紹介いただきました銀座六雁の秋山と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。私、あの、2月にですね、豊洲市場で世界料理学会という料理人の料理人による料理人のための学会というのを、ディレクターとしてやらせていただきました。その中で、やはりその、日本の料理界、そして料理人による発信力を含めて日本から世界、そして、来年行われるパラリンピック・オリンピックを越えて、その中で私たちは何ができるのかというのを問い、そして、考え、この場にいさせていただいております。料理人の発信力というのは、すごい、素晴らしいものを持っていて、意外と皆さんエネルギーで、素晴らしいものを持っているんですね。その中で、そのネットワークを繋ぎ、皆様にとどのようにおいしく楽しく食事をしていただくか。そして、レストランとして何ができるのかというのを常に考えて、これから発信していければというふうに思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

【小池知事】

ありがとうございます。続きまして、上原さん、よろしくお願ひいたします。

【上原 大祐様】

こんにちは。上原大祐と申します。私は、冬の競技をやっておりまして、アイスホッケーをやっていました。そして、パラリンピックの2006年のトリノ、2010年のバンクーバー、2018年の平昌と、3大会出場させていただいております。今は引退してですね、NPOを立ち上げたり、あと一般社団法人にしたりですね、まちづくり、後はヒトづくり、コトづくり、モノづくりといったところで、モノもいろんな企業と開発しながらやったりですとかね、まちも、企業と連携しながらやったりとか、そういうのを含めて、まちづくり、今私が一番力を入れているのがトイレ、なんですね。トイレがないところに人って基本的に行かないと思います。で、その中で、まだまだ、障害者、我々のトイレ、何とも言えないところです。で、何かというと多機能トイレとか誰でもトイレって、今多機能すぎるトイレとか誰でもすぎるトイレになっています。8個くらいマークついてるんですね、トイレに。で、しかもその8個、みんな時間かかるような人たちを押し込んでいる、一か所に、みたいなのところがあって、しかも誰でもトイレって言うから健常者の方たちも使っていないじゃないみたいなのところ

に入ってしまったという部分で、本当のこのトイレを中心にまちをつくること、まちをつくることは観光をつくること、そしてまちをつくることはパラスポーツ推進になっていくといったところで、まちを中心にですね、スポーツづくりをしていきたいなど。その中心がトイレであると、といったところで活動をさせていただいております。あとはですね、2020年もちろん大切なんですけれども、私、2020年以降がなんせ大切だと思っています。その中で、今度10月19日にパラスポーツのですね、大学委員を立ち上げようと思っておりまして、10月19日土曜日上智大学で12、13大学くらい集めてですね、パラスポーツの運動会をやろうと思ってますので、興味のある方は是非ご参加いただけたらな、という宣伝も含めて、以上、上原大祐でございます。どうぞよろしく申し上げます。

【小池知事】

ありがとうございます。今日は皆さんこちらへお越しいただいて、そして、トイレの方も、よくチェックしていただければというふうに思います。続いて、小谷さんお願いします。

【小谷 実可子様】

こんにちは。小谷実可子です。オリンピックです。1988年かつてのシンクロナイズドスイミングで参加させていただきました。パラリンピックとのご縁というか、最初の出会いは、長野オリンピックの冬季のパラリンピック期間中ずっと取材させていただいたんですけれども、最初多くの皆様と同じようにどう接していいかわからない、なんとなくちょっと特別な緊張感をもって行ったところ、もう目の前で、その時はアルペンスキーだったと思うんですけれども、その絵になるカッコよさ、美しさにショックを受けて、あまりのカッコよさにわーって叫びながら、坂道を降りたことを覚えてます。それが最初にパラリンピックに対する見方が変わった時だったんですが、その後2016年、2020年のオリンピック招致活動に携わらせていただいた時に、それまではスポーツ界でもオリンピックとパラリンピアンって、残念ながら交流がなかったのですが、招致活動を通して一緒に活動するようになって、彼らの魅力、修羅場を乗り越えてきたカッコよさ、すごく学ぶべきことがたくさんあることを身近に感じさせていただいて、この2020年のオリンピック・パラリンピック招致がきっかけで、このオリンピック・パラリンピアンとの合意ができたということは、ある意味、すごく大きなレガシーの一つになり得るな、と思いました。そういう意味では、上原さんと同じように大会の成功はもちろんなんですけれども、大会の後、何を残せるんだ、どんなレガシーを作って、どういう風に日本が変われるんだ、そんなことも応援しつつ、お手伝いさせていただきたいと思っていますので、どうぞ皆様よろしく申し上げます。

【小池知事】

ありがとうございます。風間さん、よろしく申し上げます。

【風間 俊介様】

風間俊介です。おはようございます。僕が初めてパラリンピックに関わらせていただいたのが、ソチ大会で、その後、リオデジャネイロ、平昌と取材を続けさせていただいております。その中でですね、海外の記者の方々とお話をする機会もたくさんあって、ロンドン大会のときに大きな力を発揮した、イギリスのチャンネル4という、テレビ局の記者の方々とお話ししていたときに、リオデジャネイロ大会では、記者の数が自国開催のときと比べて、半分になったという話を聞いて、東京でもきっとそうなるだろうと。でも、半分になってしまうのは、しょうがないかもしれないが、自国開催のときに、盛り上げることができれば、それが半分になったとしても、200が100、もし400だったら200と、どんどんどんどん盛り上げていけば、半分になったとしても、今までよりもはるかに注目度が高くなる。そんな風に話し合っ、なんか、これから始まる2020年が楽しみになった記憶があります。僕自身はですね、もともとスポーツにあまり興味がなく、観戦もしてこなかったんですけども、パラスポーツに触れて、初めてスポーツは面白いものだなと思った一人です。僕のようにですね、今までスポーツを見てこなかった、もしかしたら、オリンピックが始まるっていうのに、胸躍ってない人も中にはいらっしゃるのかなと思うと、その人たちに向けて特にお勧めしたいのが、パラスポーツです。パラリンピックは、色々な観点があって、スポーツだけではなく、福祉の観点だったりとか、色々な物語があるので、多くの人たちにパラリンピックを楽しんでいただけるように頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます、パラ応援大使しっかりと務めさせていただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

【小池知事】

続いて田中さん。よろしく申し上げます。

【田中ウルヴェ京様】

田中ウルヴェ京です。こんにちは。よろしく申し上げます。第一回を欠席いたしました。ちょうど、第一回のときに女子サッカーのなでしこジャパンのワールドカップがフランスでありまして、そのときにメンタルトレーナーとしてフランスに行っておりました。失礼をいたしました。もともと、オリンピック選手です。先ほどの小谷実可子さんとのデュエットで88年のソウルオリンピックに出ました。現在は、メンタルトレーナーとして、パラリンピックは車いすバスケットボールの男子日本代表を長く携わっています。大きく分けて、メンタルトレーニングの立場としてやる領域は2つあります。一つは心身の健康、well-beingです。そして、もう一つが、実力発揮です。つまり、その日、大事な本番で実力を発揮するという、この大きな2つです。これはオリンピック選手に対しても、ビジネスパーソンに対しても、全く同じ、大事な2つの領域です。その意味では、パラの応援大使として、もちろんパラリンピックの皆さんが実力を発揮できる、どんな環境がいいか、環境は、ソフトの意味でもハード

の意味でも、ということ色々考えることも大事ですが、同時に日本にパラリンピックがきたということによって、スポーツに興味のない障害者の方々ももちろんいらっしゃいます。当然、健常者の我々でもスポーツ嫌いがいるのと一緒です。その意味では、障害者の皆さんの well-being という風に考えますと、ぐっと俯瞰してパラ応援のことを考えないといけないというような、そういった研究領域もございます。是非、色々な、車いすであっても、目が見えなくても、色々な障害者の方も、みんな違って、みんな同じというような応援の仕方、それはどういうことができるだろうかということ色々と皆様と一緒に考えさせていただければと思います。よろしくお願ひします。

【小池知事】

続いて、野崎さんお願ひします。

【野崎 洋光様】

野崎洋光でございます。今、2020 オリンピック・パラリンピックの選手村の料理を担当させていただいております。そんな中で、私たちができることは、健常者であろうと、障害者であろうと、食の垣根はないはずで、その垣根に対して、やはり健食ということ踏まえて、私たちにできるのは、健康を保つということが、障害者であろうとスポーツができる、この成功への位置づけの、裏付けとなるような感じがしますので、応援大使としてできることを協力しますので、よろしくお願ひいたします。

【小池知事】

ありがとうございます。次、野村さんお願ひします。

【野村 祐介様】

私、港区の愛宕で精進料理醍醐で四代目店主を務めさせていただいております野村祐介と申します。私、料理人でございますので普段調理場の方に常におりまして、色々なことに対する専門知識というのは、食以外のところで十分とは言えないかもしれないかもしれませんが、精進料理というのは野菜料理とは少し違ったものになっておりまして、その定義の一つに三心を添えるというのがございます。この三心というのは、大心、喜心、老心という三つの心と書きます。大心というのは固定観念を捨てて、ものごとを大きな気持ち、寛容な気持ちで取り組むということです。喜心というのは喜ぶ心と書きまして、すべてのものごとに対して前向きにポジティブに取り組むということです。最後に老心というのは、相手の立場になって思いやりをもってそのものごとと接するというごこととございます。専門知識の乏しい小職ではございますけれども、ぜひとも三心を持って、この懇談会メンバー及びパラ応援大使というものを務めさせていただきたいと思ひますので、みなさまぜひよろしくお願ひいたします。

【小池知事】

ありがとうございます。続いて林家三平さんお願いします。

【林家 三平様】

このたびはパラ応援大使にさせていただき誠にありがとうございます。私も川口の方で体験する場所があったもので、そこでいろいろなことを勉強させていただき、こんなに大変だなというように思いました。そういうところをどんどん改善していくという大切さは、私たちひとりひとりが声をあげなきゃいけないと思いました。また今回、うちの師匠と一緒に参加させていただける。こんなにうれしいことはありません。そして懇談会いいですね。こうして懇談会ができるというのは、私は五月の柏餅と同じだと思っています。練りに練れば、いい案が出てくる。パラパラの拍手、ありがとうございます。

【小池知事】

ありがとうございます。それでは眞鍋さんお願いします。

【眞鍋 かをり様】

こんにちは、眞鍋かをりです。今回はパラ応援大使にさせていただいてどうもありがとうございます。少し前にですね、朝の「ビビット」という番組に出演させていただいた時に、テリー伊藤さんにパラスポーツのおもしろさをすごくたくさん語っていただきまして、なんとか盛り上げていきたいということで誘っていただきました。今、3歳の息子がいるんですけれども、たぶん来年だったら大人になっても記憶に残っているんじゃないかな。何らかのかたちで体験はさせてあげたいんですけれども。ただ、やっぱりいろんなママ友とかと話していると、体験させてあげたいんだけど、小さな子がいるとやはり連れて行きづらいよねという話になりまして、人ごみだったりとか、小さいとトイレの心配とかもあったりするので、でもなんとか体験させてあげられないかなという話は結構よく出ているんですね。そんな中で、オリンピックももちろんなんですけれども、パラリンピックをいいかたちで体験させてあげて、それが大人になって記憶に残ってくれたらこんなに素晴らしいことはないなと思いますので、ほんとに、バリアフリーとか、そういう、共生という意味では、子連れも参加しやすい環境をつくるというのが、本当に、お願いしたいなと私も個人的に思っていますので、いいかたちになるよう皆さんと一緒に考えていけたらうれしいです。よろしくをお願いします。

【小池知事】

ありがとうございます。続いて村岡さんお願いします。

【村岡 桃佳様】

こんにちは、村岡桃佳と申します。よろしくをお願いします。私は、2014年のソチパラリンピックと2018年の平昌パラリンピックに出場させていただいて、この4

月から車いすの陸上競技の方に取り組み始めました。もちろん選手としての視点であったりとか、障害者、車いすユーザーとしての視点は多く持っているかと思うんですけど、そのほかの視点からの意見としては、まだまだ未熟な部分もありますので、皆様との意見交換等を通して、私自身もたくさんのことを学ばせていただきながら、2020 東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて一緒に貢献であったり、お手伝いできたら嬉しいなと思います。よろしくお願いします。

【小池知事】

それでは、ヨーコ ゼッターランドさん、お願いします。

【ヨーコ ゼッターランド様】

こんにちは、ヨーコ ゼッターランドと申します。オリンピックとして、1996 年のアトランタ、それから 1992 年のバルセロナ・オリンピックにアメリカの選手として、女子バレーボールで出場した経験がございます。パラ応援大使に今回選んでいただいて嬉しく思っています。といいますのは、先ほど小谷さんの話でもあったのですが、なかなかパラリンピアンのみなさんと交流をするとか、パラスポーツについて知るという機会が、実はあるようで全然これまでありませんでした。今回、東京にパラリンピックが来るというきっかけで、私自身も初めてパラスポーツ「シッティングバレー」を体験させていただいたんですけども、あまりにも面白すぎて、お尻をずっとついて試合をやると思うのですが、3 日間お尻が筋肉痛になってしまいました。というぐらい、その魅力に取りつかれまして、同時に人の持ついろんな可能性であったりとか、あるいは、それまで知らないうちにバリアを作ってしまったんじゃないかなと考えさせられる非常に大きなきっかけになりました。今回、日本にとっては、自国開催ということになりますので、スポーツを通じて人の持つ可能性とか、スポーツの持つ力、環境を大きく変えるという大きなツールとなり得ると思いますので、私も微力ながらお手伝いさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

【小池知事】

「シッティングバレー」って結構難しいんですね。ついお尻が上がっちゃって。ありがとうございます。それでは、ラモス瑠偉さんお願いします。

【ラモス瑠偉様】

みなさんこんにちは。ラモス瑠偉です。この度、パラ応援大使に選んでいただき、本当に光栄に思っております。私がじっくりパラリンピックを見たのは、ロンドン大会です。いろんなスポーツを見て感動で、感動でもう涙、涙です。その当時は自分の家族でもいろいろあって、勇気を与えていただきました。まさか2年半前ぐらいに自分が脳梗塞で倒れると思わなかったし、決して症状が軽いわけではないけど、パラリンピックの選手たちの姿を見て、まだまだ私は甘いんだなと思って、あの時の選手の姿を思い出しながらリハビリにいたり、先生たちのところにいたりして、3

～4カ月ぐらいで退院して、永井秀樹(現東京ヴェルディ監督)の引退試合に出させてもらった。なので、自分の力じゃない。結局あの選手たちの力が、私をここまでにしてくれたんじゃないかと思っています。私が愛しているこの国で、特にパラリンピックを成功させるために、何かできることがあれば、言っていただければ、一生懸命やるつもりですので、これからもよろしくお願いします。

【小池知事】

ありがとうございました。そうですね、お子様連れにとってもバリアのないパラリンピックにすることが重要ですし、また実際に体験してみられたり、また競技をご覧になった方々、ほんと感動するんですね、パラリンピックというのは。人間の力っていうのは、意志っていうのはこれほど素晴らしいものかっていうことで、TEAM BEYOND という組織を東京都で立ち上げておまして、こちらチラシと、それから、この多摩産材を使っておりますうちわでございますが、それは人間の可能性を超えたと言いましょか、想像を超えた力を出す、そういうパラスポーツを応援していきましょうという組織で、既に127万人もの人にご登録いただいているという状況でございまして、既に127万人もの人にご登録いただいているという状況でございまして、先ほどの明日から始まりますチケットの受付でございますが、お手元に冊子がございますので、ご覧いただければと思います。スケジュールが書いてございます。ちなみに本日お越しいただいている海の森水上競技場は、カヌーとボートの会場となっておりますので、後で実際のボートの練習などをご覧いただければと存じます。

バイオリニストの葉加瀬太郎さんもメンバーを務めていただいておりますけれども、連絡がありまして、本日はどうしても来られないと。メッセージがございます。

【事務局（横山理事）】

事務局から代読させていただきます。小池都知事、関係者の皆様、本日は突然の欠席となり、大変申し訳ございません。前回、第一回のミーティングに参加させていただいた際、パラスポーツ、バリアフリーの推進のためというテーマで、一人の音楽家の立場から発信をさせていただきました。本日は参加することはできませんが、パラスポーツ、バリアフリーの応援団として、これからも音楽を通じて、僕ができること皆様と一緒に発信をさせていただきたいと思っております。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。2019年8月21日、葉加瀬太郎。

【小池知事】

次は、早速これから意見交換に入っていきたいと思っております。意見交換のテーマでございますけれども、メンバーの方々からのご意見に基づいて、事前にお伝えをしております。また、お考えをいただいております。二つの点、一つが懇談会のキャッチフレーズでございます。都民の皆様、国民の皆様にはわかりやすく、このパラバリーと言っておりますけれども、もっとわかりやすく伝えて、目的など共有できるキャッチフレ

ーズをお考えいただくこと。それから活動について、皆様からこうしたらいいんじゃないか、こうしたらよりパラリンピックについて、バリアフリーについて都民の皆さんに国民の皆さんに考えていただけるのではないかと、というアイデアをいただきたいと思います。

ここからはですね、司会の方をバトンタッチをさせていただいて、ピンチヒッターじゃなくて、投手を変えます。中畑さんです、応援団長、お願いします。

【中畑 清様】

事務局の中畑でございます。知事の方から指名をいただきまして、応援団長、司会をやれということで非常に嬉しく思います。マイクを持つことが大好きです。本来であれば、適任の方がいらっしゃるし、司会進行すんなりいけるはずなんですけど、私の方は雰囲気はよくなる。自分で言うか。雰囲気を作るのは大変だと思います。これだけのメンバーが集まるのはありえないんで、オリンピック・パラリンピックだということでこのキャスティングができてるんだと思います。皆様、ご苦労様でございます。

今日のキャッチフレーズに入る前に、実は朝起き立てに、NHKさんどこですか。朝イチという番組で、今日1時間でパラリンピックの特集で全競技を紹介し、全ての候補選手というのかな、ドラマ的な作りをしてくれて、小学生の子供たちがそれを見ている。「すごいね。パラリンピックの選手は」とか「この競技はすごい」という感動を味わってそれを映像に流してくれている。次の種目もまた見たいと思うような番組を作ってくれた。さすがだね、NHKは。これを全局でやってもらいたいと思うんです。このようなテーマをもってオリンピック・パラリンピックに対しての意識を高めてもらいたい。環境づくり、マスコミが全社応援する環境になってくれたら嬉しい。以上が私の意見です。それでは早速本題に入りたいと思います。

懇談会に対してのキャッチフレーズだけど、これだけ言っておきたい、これだけの中で皆さんのハートにふっと募ってくるものがあるキャッチフレーズはこれかなと。自分のキャッチフレーズだと思うけど、それ以外でも感じ取っているものがあればそれはもしかすると良いかもしれない。そのような意見があればお聞きしたい。言にくいよね。ラモスは何がある？

【ラモス 瑠偉様】

私はここに書いてあるもののうち、「全ての人が笑顔と共に！！」がすごく良いと思います。やっぱり日本人は照れくさくて、私も、リオでみんな明るくて。やっぱり何に置いても笑顔で迎えられることが良いことだと思っています。

【中畑 清様】

ちょっと勘違いしていると思うんだけど、懇談会に対してのキャッチフレーズなんだよね。パラリンピックに対してじゃなく、この懇談会に対してのキャッチフレーズを決めたいと思います。今、ラモスが言ったのも、私はおそらくパラリンピックに

対してのキャッチフレーズが頭にあるんだと思います。そういった感覚を少し皆さんが理解して、懇談会に対してのキャッチフレーズだと思って見ると、全部いい対象ですね。そこを皆さんがどういうふうに書いてくれるか。風間君、何か自分で感じるものある？

【風間 俊介様】

あの、この中の「みんな違って、みんな同じ」というのは、金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい。」というのに繋がるといえるか、ほんとに良さがでてるとあって、みんな個性的であるのと同時に、それぞれ皆、自分の目標だったり、やりたいことに向かって頑張っている人間という部分では同じという、この違いと同じっていう矛盾してるものが一つに交じっているのは素敵だなと僕個人では思いました。

【中畑 清様】

「みんな違って、みんな同じ」

【風間 俊介様】

はい。素敵だなと、僕個人としては思いました。

【中畑 清様】

ほかに？

【小谷 実可子様】

はい。風間さんがいいとおっしゃったからではないんですけど、私も偶然「みんな違って、みんな同じ」に星印を付けていました。リズムがいいのと、この懇談会のキャッチフレーズだとすると、これだけ各業界のいろんな方々が集まって、立場とかは違うのに、パラを応援しようっていう思いが一つっていうこととすごくシンクロしたので。

【中畑 清様】

ああシンクロね。説得力あるもんな。

【小谷 実可子様】

風間さんに一票入れたいと思います。

【中畑 清様】

私もシンクロしましたが。テリーさんは？

【テリー伊藤様】

パラリンピックは健常者のオリンピックと違うところがあって、メダル至上主義

じゃないと思うんですよね。それからマスコミの責任でもあるんですけども、かなり、オリンピックに出た方々と話す機会があって、その方々がよく言うのは、海外から帰ってきて、メダリストはすごく評価される、極端な話、飛行場で分けられるのだと。すごく冷たい思いをする、ということをよく聞くんですね。ですから、パラリンピックは、健常者と、オリンピック以降、どれだけ理解し合えるか、そして、メダルを取れなくても、仲良くやれる、そこが一番大事だと思うんで、今言われていた、「みんな違って、みんな同じ」、僕はものすごく素敵な言葉だと思います。

そして、もう少し言うと、「アスリートの皆さん、あなたの汗が未来の希望」という言葉もありますが、これもすごくきれいな言葉だなと思います。やはり、結果よりも、みんなが楽しくやるような言葉がいいなと思います。「みんな違って、みんな同じ」僕は大好きな言葉です。

【中畑 清様】

ありがとうございます。だいぶ絞られてきていますが、欽ちゃん、どうですか。先輩の意見はすごく大事なんで、お願いします。

【萩本 欽一様】

萩本です。先ほどまで、この会が品のある会合だと思っていたのですが、司会者が変わってから、一気に、一体どこを目指しているか分からなくなって、そこがちょっと、もうちょっと。

私は、キャッチフレーズでここに書いてある中にはいいがありません。私が今、いいキャッチフレーズだなと思ったのが、今、みなさんの話の中から素敵なキャッチフレーズ、あ、これキャッチフレーズにしたらいいな、っていうのがありました。それは、小池知事のご挨拶の中に、名刺のところで使った、「どうぞバンバン」っていうの、わけがわからなくて素敵だと思いました。あの、キャッチフレーズってなんか皆さん、メッセージとして伝えようとするけど、「なんて素敵なんでしょう、わからないです」でいいんでしょ？「どうぞバンバン」、これをキャッチフレーズにしていたら、勝手に好きなバンバンと好きなドンドンを入れると素敵なキャッチフレーズになるんじゃないかなと思っております。以上で、品のある言葉を終わりたいと思います。

【中畑 清様】

ありがとうございます。「どうぞバンバン」、知事のさっきの挨拶にある「どうぞバンバン」。

【萩本 欽一様】

「どうぞバンバン」しか言わなかったですよ。それがなんとも素敵で。ですから中畑さんの司会も「どうぞバンバン」的ですよ。

【中畑 清様】

はい。すみません。ちょっと控えます。はい、どうぞ。じゃあ亜久里、何かある？

【鈴木 亜久里様】

そうですね。僕も「みんな違って、みんな同じ」っていう言葉はすごく感動したんですけど、中畑さんと同じかなっていうのは少しあるんですけど。

【中畑 清様】

どういうこと？

【鈴木 亜久里様】

いやいや、中畑さんと同じか、違うかっていうと少し違うかなと。すみません。

【中畑 清様】

俺に振らなくていいから、議論を。

【鈴木 亜久里様】

この言葉、僕、最初に丸つけて。「みんな違って、みんな同じ」、みんなが活動していて、みんなが同じ方向に進んでいくキャッチフレーズに感じたんです。

【中畑 清様】

ありがとうございました。大橋さん、どうかな。

【大橋 未歩様】

私も「みんな違って、みんな同じ」がいいなと改めて思いました。ここまで聞いている中で、皆さんのお話する内容も、てんでばらばらだなと思いつつも、向かっている方向は同じだということも、ここまでの時間で実感いたしましたので、「みんな違って、みんな同じ」がいいと思います。

【中畑 清様】

はい。ありがとうございます。だんだん絞られてきたんですけど、「どうぞバンバン」も結構、インパクトがあるなという感じがしましたけれどもね。眞鍋さん、どうかな。

【眞鍋 かをり様】

私も「みんな違って、みんな同じ」に印つけていました。他に2個ぐらい、いいなと思ったのはあったんですけど。「身も心もバリアフリー 世界から東京へ！」とか「開け多様性。パラスポーツの力」っていうのが、東京とかパラスポーツのキーワードが入っていて、すごくわかりやすいな、と思ったんですけど。でも、全体的なメ

ッセージとして一番わかりやすいのは「みんな違って、みんな同じ」かなあ、とは思いました。

【中畑 清様】

ありがとうございます。いろいろ皆さんの意見とか方向が見えてきましたけれども、どうでしょうか。最後に谷垣さん。

【谷垣名誉顧問】

いや、いいと思いますね。私は今のと、もう一つは「不自由は無限の自由」がいいな、と思ってたんですが。あの、やっぱり「みんな違って、みんな同じ」に収斂しつつあるから、それがいいかな、と思いますね。

【大橋 未歩様】

あの、「不自由は無限の自由」は私が上げさせてもらったんですけど、パラ選手がおっしゃったんですよ。パラの選手が、左手が使えないんですけども、一本の手を工夫することが楽しくてしょうがない、っておっしゃってたんですね。創意工夫の余地があることが自分にとって喜びなんです、っておっしゃってたんで、それを反映させてもらったんです。すみません、ちょっと蛇足ですが。

【中畑 清様】

いいですね。あの、こうやって聞いていると、これでいい、というのではない気がしますね。何点か、やっぱり、この懇談会に対してのキャッチフレーズはあっていいんじゃないですか。一つにこだわらないで、何点か使い分けしていく。事務局としてはどうですかね。そういう考え方にはならない？

【事務局（横山理事）】

ご指名ですので発言させていただきますが、これからの特に SNS を使った発信ですか、私共のホームページ、そういうところいくつかのフレーズを使い分けながら複数使っていくことは可能かと思っておりますので、今日の皆様方の議論の中で、そういう形でおまとめいただければ、そのようにさせていただきます。

【中畑 清様】

いや、つまり、まとまんない、と僕は言ってるんでしょ。まとまらないんだけど、そういう形ではどうなんだ、という提案をして言ってるんだけど。どうでしょう、皆さん。今挙がった中で。

【テリー伊藤様】

不自由は無限の自由、というのは、ものすごくいいと思います。規制がある方が人間って想像力を働かせますよね。健常者にとっても、すごく必要な部分だと思うし、

哲学的な部分も入るし、可能性のある言葉の気がして、素敵だと思いました。

【中畑 清様】

はい、どうぞ。

【田中ウルヴェ京様】

あの、私はこれを見て、「不自由は無限の自由だ」をつけたんですけど、でも、自分自身が出したのが「みんな違って、みんな同じ」でした。実はこれ、すごく論理的な根拠があって、いろいろな先行事例でもこのことが書いてあるし、そして、車いすバスケットボールの選手と関わっているときに、これをキャッチフレーズといいますか、公にはしていませんけども、考えること、感じていること、つまり感情や思考はどんな人間も一緒。でも、人から見えている体の形は違う、ということで、みんな違うんだけど、人間みんな心は一緒だね、というようなことも入っているので、それは本来オリンピックも一緒なんですけど、パラリンピックは可視化するのが明らかなので、それは大事な言葉だなとは思っていました。

【中畑 清様】

二條さん、どう？

【二條 実穂様】

私が学校へ講演活動で伺わせていただいたときに、やはりまだまだパラリンピックと児童の皆さん、生徒の皆さんとの距離があるなと感じることが多いです。やはり見たときに車いすということが一番インパクトのある大きな違いだと感じると思いますので、このキャッチフレーズの中で、「みんな」や「ともに」など、車いすユーザー、障がい者だけではなくて、“全ての人”という意味で、「みんな」や「ともに」という言葉が使われたものが素晴らしいのではないかな、と思います。

【中畑 清様】

ありがとうございます。ヨーコさん、どう？

【ヨーコ ゼッターランド様】

ありがとうございます。私は、今出てきた中で私はできれば2つ。1つは「みんな違ってみんな同じ」とやっぱり「不自由は無限の自由だ」、この2つはすごくキャッチフレーズでいいなと思っていて、私は日本語を喋っていますが、一応アメリカ人なので、アメリカチームにおりましたときに、本当に個性豊かな、色々なバックグラウンドの違った選手がいて、本当に意見も様々ですし衝突することとかも多々あったんですけども、やはり目指していく方向が、例えばオリンピックで優勝して金メダルを取るという1つの目標に向かっていくベクトルが何一つ変わらなかったんで

すね。その目指していく中で、個性を認め合うと言いますか、そういう中で共生していくというところで、やはり皆違っていい、そうじゃなきゃ面白くない、けど目指す方向は一緒というところで、すごいパワーが出ると思うんですよね。そういうのも自分の経験としてあったものですから、やはりこれも響きましたし、「不自由は無限の自由だ」というところで、やはり色々な想像力と創造力、あのイマジネーション、クリエイティブの部分がすごく掻き立てられる、そういったことが含まれているのが、このキャッチフレーズから私は感じられたので、この2つがいいなと思っています。

【中畑 清様】

ありがとうございます。師匠、大丈夫？お願いします。

【林家 三平様】

では、師匠の代弁と言うことで。私は「1、2、3 パラーン」がいいと思っています。どういうことかという、これは確実に私の師匠が作った。だから、師匠に逆らうことは、僕はできないんです。だからお願いがあるんです。投票制だと有り難いなと思いました。でもまあ、真剣なことを言いますが、できるだけ短いほうがキャッチフレーズもいいし、五・七・五で流れた方が喋りやすいというのがあるんですよ。そっち系で何かもうちょっと案が出ればいいかなと思いました。以上です。

【中畑 清様】

はい、ありがとうございます。他に皆さん何か。

【三浦 浩様】

パワーリフティングの三浦です。色々先ほど聞かせていただいて、懇談会のキャッチフレーズということなので、やはり知事の言っていた「パラバリ」って最後に入れたらどうかなって。何でもかんでも。「みんな違って、みんな同じ『パラバリ』」だとか「不自由は無限の自由だ『パラバリ』」という何かあるといいかなと思いました。

【中畑 清様】

ありがとうございます。村岡さん、お願いします。

【村岡 桃佳様】

私も三浦さんのご意見がすごく素敵だなと思っています、1つに絞らなくても、これらを組み合わせるのも素敵だと思います。パラバリという言葉とかも、組み合わせるというの素敵なのかなと思います。「みんな違って、みんな同じ」というフレーズも、私はすごく素敵な言葉だと思っています、それは幼少期に歩けなくなって、人って見た目から入るところがすごく大きくて、幼少期は特に強かったので、周りの友達と違う自分というのが物凄く嫌で、自分の中でコンプレックスになったりとか、本当に嫌だったんですよね。だけど、ふとした瞬間に、自分一緒だな、自分も周りの友達も

変わらないんだなということに気が付いて、すごく気持ちの面で楽になったという経験があって、気持ちの面でもでもそうですし、多くの海外の方々が1つになってプロジェクトを作っていくというのが、色々な意味、色々な視点から考えてすごく素敵な言葉だなと思いました。

【中畑 清様】

ありがとうございます。ではともかさん。

【猪狩 ともか様】

はい、猪狩ともかです。私は今、皆さんの意見を聞いて、何かまとまって思い浮かんだのが、さっきの「パラバリ」っていう言葉を入れて、五・七・五にするのがいいっていうのを聞いたら、「パラバリは、みんな違って、みんな同じ」とかってやると、いい感じにまとまるのかなと思って、でも、「不自由は無限の自由だ」というのもすごく素敵だなと思ったので、私がよく二個伝えたいことがあるときに、～（によろ）を使うんですね。副題みたいな感じで。だから、それを使ったら、「パラバリは、みんな違って、みんな同じ ～不自由は無限の自由だ」ってやると、いい感じでまとまるのかなあと思ったんですけど、どうでしょうか？

【中畑 清様】

それも一つの案ですね。ありがとうございます。全員しゃべる時間がないみたい。大体いいですか？すみません、全員の意見を聞けなくてすみませんけれど、知事、最後に今の意見を聞きながら、これでいいんじゃないの？という決断はつきました？

【小池知事】

せっかく皆さんがこれだけいい案を出して頂いて、そして複数でもOKという話もございました。一旦預らせて頂いて、まとめたいと思います。

あと、SNSなどで発信をしていただく際に、いわゆるハッシュタグをつけて発信をすると効果がありますので、これについては、一言決めて、そしてその上で、今日いくつかまとまりつつあるので、それをケースに応じて使ったら、効果があるかと思っています。

【中畑 清様】

そうですね、このアイデアを活かしてほしいと思います。

【小池知事】

みんな、バンバン、お願いします。ご意見いただきました。ありがとうございました。あ、欽ちゃんは、欽ちゃんシートを考えて頂いていると聞いたんですけど、どんな考えですか？

【萩本 欽一様】

切符の販売が終わったところで、少ないところに、そこで誕生させようと。バンバンやります。

【中畑 清様】

はい、バンバンっていう感じがするね。バンバンやりましょう。次のテーマでいいんですか？もう終わり？終わりですって。

ありがとうございました。いい話だったんで、この次また違うテーマでいきたいと思います。どうもありがとうございました。

【小池知事】

お時間が限られているということで、本日の二つ目のテーマの「活動アイデア」については、事務局で取りまとめさせていただきまして、今後の活動の参考にさせていただきますと、このように思います。よろしく願いいたします。中畑さんも、みんなバンバン意見が出て、おかげさまで、ありがとうございました。

それから、パラ応援大使として皆様方にご協力を頂きたいと思います。目的は、パラリンピックの成功をベースに、東京をバリアフリー、これは、ハードも心も、ソフトも、バリアフリーにしていくということが大きな目的でございます。どうぞ皆様、それぞれの皆様方のご専門のところで、お力添えを頂けるところで、都民の皆様大きく、バンバン、ご協力の程、よろしく願いいたします。

それでは、最後に谷垣先生、総括といたしますか、よろしく願いいたします。

【谷垣名誉顧問】

ありがとうございました。総括というか、大それたことはできないんですが、私、一回目は欠席しまして、今日初めて皆さんと一緒に議論させて頂きまして、大変心強く思いました。と申しますのは、私も怪我をして障害を負いまして、正直申しますと、少し孤立感みたいなものがあつたんですね。それが、これだけ大勢の方が集まってですね、少しでもパラリンピックを成功させて、バリアフリー社会を創っていくのに少しでも力を貸そう、知恵を出そう、こうやって頂いているのを見て非常に励まされました。そのことに、心から御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

【小池知事】

ありがとうございました。それでは、意見交換を終了させて頂きまして、事務局から、皆様方にお願いがございます。よろしく願いします。

【事務局（横山理事）】

活発な議論をありがとうございました。

この後の予定ですが、メンバーの皆様には、10分程度この場で休憩いただいた後、観客席、パラアスリートによるボートのデモンストレーションをご覧いただきます。

なお、机上に「みんなで観に行こう！東京 2020 パラリンピック」というパンフレットをお配りしております。本日は簡易印刷版となり恐縮でございますが、こちらは、大会に向けて、都民・国民の皆様に関心を高め、会場での観戦につなげていくことを目的に作成したものです。競技、日程、会場などの情報、競技の見どころも紹介し、東京 2020 パラリンピックの観戦プランを練るのに役立つパンフレットとなっておりますのでご活用いただけますようお願いいたします。

また、「パラ応援大使」公式 Twitter 及び Instagram を開設しております。パラ応援大使の皆様のアカウントのフォロー、リツイートなどもさせていただきたいと考えておりますので、ご理解、ご協力をお願いします。そして、メンバーの皆様のアカウントにおいて、本アカウントをフォローいただけますと幸いです。あわせて、パラスポーツやバリアフリーに関連するツイート等を発信される際の「#パラ応援大使」のタグを付けていただければ幸いに存じます。

最後になりますが、毎月メンバーの皆様宛てに「パラスポーツ関連イベントカレンダー」を送付させていただいております。ぜひご参考にしていただき、競技大会やイベントなどに応援にいらしていただければ幸いです。事前に事務局宛て御連絡いただきましたら、詳しいご案内を差し上げます。よろしくようお願いいたします。

準備ができ次第、移動をお願いします。ご案内しますので、今しばらく、お待ちください。

なお、この部屋には戻らないこととしておりますので、お忘れ物がないようお願いいたします。

ありがとうございました。